



実用新案登録願

昭和 46 年 12 月 22 日

(15707A) 特許庁長官 井 土 武 久 殿

1 考案の名称

ヘッドホンの折畳式挟持杆

2 考 案 者

出願人と同じ

3 実用新案登録出願人

東京都江戸川区小岩町1丁目570番地

千代田嘉男

4 代 理 人

東京都千代田区岩本町三丁目3番6号

共栄ビル内

電話東京(866)1714番

(4574) 弁理士: 大 賀 貫 二

5 添付書類の目録

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 明 細 書 | 1 通 |
| (2) 図 面 | 1 通 |
| (3) 委 任 状 | 1 通 |
| (4) 願 書 副 本 | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1 通 |

48-75626-01

46-121420

明 細 書

1 考案の名称

ヘッドホンの折畳式挟持杆

2 実用新案登録請求の範囲

受話器の背部に設けた支承器に両端部を摺動調節可能に挿通した頭載挟持杆を適所に於て切断し、その一方の切断杆の端部に長手方向に適宜長さの長孔と該長孔と適宜離してL形切欠長孔とを設けこの長孔を設けた杆端と他方の杆端とを重ね、端部りの長孔に他方の挟持杆に固植した鋸頭附ピンを嵌合して両杆を軸着し一方のL形切欠長孔には鋸頭附ピンを設けた挟持杆の切断部に近き上面に固植した鋸頭附ピンを掛け外しできるように係合させたことを特徴とするヘッドホンの折畳式挟持杆。

3 考案の詳細な説明

本案はヘッドホンを支持する頭載挟持杆を折畳むことができるように構成し、不使用時ヘッドホンを取付けたまま折畳み体積を減少して収蔵保管及び携帯に便ならしむることを目的とするもので

ある。

これを図面によつて説明すると、(1)は受話器、(2)は支承器(3)に両端を挿通した弾性の頭載挟持杆、(a)(b)は頭載挟持杆(2)を適所から二つに切断した部片にして、(4)は部片(b)に穿設した長孔、(5)は長孔(4)と適宜離して設けたL形切欠長孔、(6)は長孔(4)を通し部片(a)に固植した銅頭附ピン、(7)は部片(a)の端に近き上面に固植した銅頭附ピンにしてL形切欠長孔(5)に係合するようにしたものである。

従来一般に知られるヘッドホンは馬蹄型の弾性挟持杆に連結されているから体積が嵩張り収蔵保管や携帯に不便が多い。然るに本案は、挟持杆は前記のように銅頭附ピン(6)と(7)によつて二つに分離された挟持杆を第一図鎖線で示すように折疊むことができるようにし、組立た時は第二図及び第三図に示すように一本のように連結することができるので、従来の一本の弾杆でできた馬蹄型の挟持杆と何等異なることがなく、従つて本案は使用に不便なく携帯や保管、及び収蔵に極めて便利な

る効果がある。

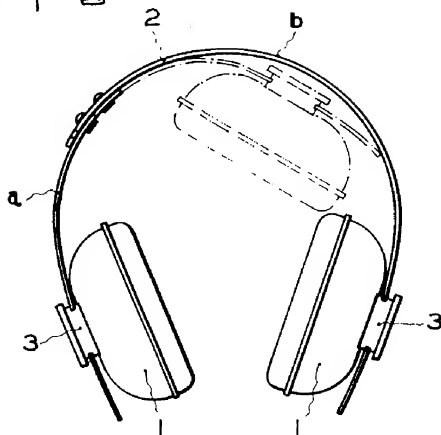
4 図面の簡単な説明

図面は本案の実施例を示すものにして、第一図は正面図、第二図は頭載挟持杆の要部を示す平面図、第三図は第二図の正面図である。

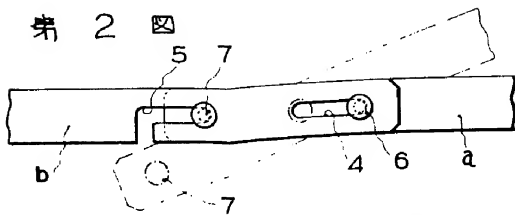
(1) … 受話器、(2) … 頭載挟持杆、(3) … 支承器、(4) … 長孔、(5) … L形切欠長孔、(6) … 鉸頭附ピン、(7) … 鉸頭附ピン。

出願人 千代田 嘉 男
代理人 大 賀 貢 二

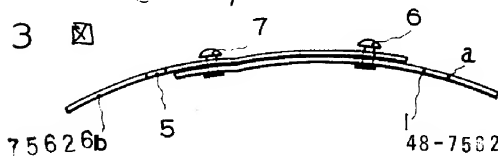
第 1 図



第 2 図



第 3 図



48-75626-05